



## 織部に想う

田口昭二

織部(以下織部焼という)は美濃桃山陶の最後を飾った焼き物である。織部の語源は、後世(江戸時代中期)に出たもので、茶頭古田織部正好みの焼き物ということで、この名が出たという。

慶長10年(1605)ころ、久尻(土岐市)の加藤景延が九州唐津から連房式登り窯を導入して最初に焼造したのが織部焼であった。

瀬戸黒・黄瀬戸・志野を焼いた単室の大窯とは違って、沢山の焼成室を連らねた蛇のように長い窯が唐津からとすれば、この窯で焼造した織部焼はどこからきたのだろうか。もし美濃陶工の技とすれば、志野や鼠志野を焼いた時代にその兆候があってもよいわけである。ところがそれは無いようである。それなら外来のものということになるのではなからうか。

織部焼は、器形・文様・絵具・釉薬など総て今までの常識を破った発想であることは、誰もが知るところである。こうした創造はいったい誰によるものなのか。もし古田織部であったとすれば、彼はピカソやミロのような才能をもった人物だったということになる。

桃山文化の織部焼に及ぼした影響ということで、その源流についてみると、漆器の文様、織物の辻が花、ギヤマンのカット文などにあるといわれている。それでは、それらの源流はということになるとむずかしい。

織部焼の色彩についてみると、緑色が主流を占め、赤・黄・青・白・黒・茶などを巧みに使

っている。過日、加藤卓男先生からベトナム交趾の緑釉軟質陶器の皿を見せていただいた。それは正しく総織部であった。器に描かれた刻画文は、志野や鼠志野にある驚絵と同じモチーフである。驚きは更に続いた。今度はやはり交趾の小型の石灰壺(硬質陶器)であった。それには、上面に銅緑釉がかけてあった。正しく青織部の技法である。近年堺・大阪などで出土する交趾や華南三彩は、織部のルーツであることはほぼ間違いないであろうが、織部焼総てにあてはまるとは思えない。

元屋敷窯出土の赤織部茶碗を紹介してみよう。赤味のある素地のみこみに白泥で矢を3本描き、内側面に小さな四角を4個あしらひ、反対の側面の口縁から口縁へ3本の線がひかれ、丸い三ツ文が4カ所にある。その上に鉄絵具でふちどりを行っている。その運筆は決して鮮かなものではなくのたのたと無雑作である。しかし全体で見ると、キチッとまとまりがあり、お互いに関連のない文様で構成されているのにもかかわらず違和感がまったくない。(多治見工業高等学校所蔵 岐阜県陶磁資料館に展示)

文様の構成は、抽象的でしかも年季が入っていないとこの発想は出ない。つまり臨面ではこの迫力が出ないと思う。美濃陶工にこんな優れた創造があったとすればすばらしいことである。

まだ織部焼に関する想いはつづくのであるが、紙面に限りがあるので、以下は余韻として、織部焼の魅力に今少し浸っていようと思っている。

(多治見市文化財保護センター所長)

# “第40回 全国博物館大会に参加して、”

とき 平成4年11月5・6日  
ところ 徳島県立郷土文化会館  
徳島県立博物館



約30年振りに訪れた徳島市。JR徳島駅駅頭で得た感じは、活性化を図ろうとする意気込みが膚にひしひしと伝わってくるものがあった。駅舎ビルの再改築、全国規模を誇るデパートの営業、通行車両の多さ、若い女性の颯爽たる姿等視野に入ってくるもの全てがそうだった。往時、田舎に来たとの印象から隔世の感がある。そうした雰囲気感触に、今回の大会に臨んだ。大会テーマは、メインテーマが「新しい世紀をめざす博物館」、サブが「期待される博物館像」を掲げていた。大きなテーマの意味するものは何だろう、期待が膨らんだ。・人々は博物館に何を求めているか。・人々に好まれる環境は ・どのような人が来、来ないか ・社会の理解を得るには何をなすべきか ETC。

第1日目はセレモニー関係とシンポジウムが行われた。高山屋台会館学芸員水口登美子さんが「博物館研究」VOL 26 No.2 に発表された「展示から保存展示への試み」と題した屋台(山車)の保存展示に関する研究に対して、日本博物館協会から「棚橋賞」が授与された。同賞は、岐阜県出身で全国の博物館の生みの親、東京博物館長 棚橋源太郎先生を記念して設けられ、全国で27人目、県内で初めての受賞だけに、岐阜県博物館協会としても誇りに思えた。つづいてシンポジウムにおいて、パネラー達からテーマに沿って基調的な発言があった中に、ややもすれば博物館に関する蘊蓄に傾き勝ちで

あるが、「入館者自ら参加するものに人気が集まった。博物館の活動に活気を与えてくれるには友の会活動が大切で、ボランティアの存在が館の活動に活気を与えてくれる」などと強調のうえ、博物館も客商売で、人がいっぱい来て、目を見張って、好奇心を持ってくれるものを展示し、来館者にはそれぞれ十分な教育機能が発揮出来るような展示をつくるのが大事、とのこと興味深い発言であった。

2日目のフォーラムにおいては、青木東京国際大教授が、(1) 展示や教育活動を工夫し、来館者自らが体験出来るような活気のある親しめる博物館で、来館者の求めているものを十分把握し、提供することが必要。(2) これからの博物館のあり方の基本は来館者であって、来館者が求めているものを忘れないようにすべきである。展示内容の質の高さを考えると共に、ワークショップやレストランなどの施設についても十分な配慮が必要。(3) 身障者や幼児をつれた母親にも対応できるような、人にやさしい博物館としての配慮がされているか、反省の要あり。などと発言されていることは、博物館も社会のニーズを見抜き、これに対応する活動が求められる旨のヒントが隠されているようである。また、こうした大会には付き物のアトラクションが催されたが、人形浄瑠璃の本場阿波ならではの感銘を与えてくれたのは、徳島市立川内中学校民芸部の女子生徒さんが、巡礼姿のお鶴、母親とされるお弓との別離の状況「傾城阿波の鳴門〈巡礼歌の段〉」

「これもういにやるか、名残りが惜しい別れとない、これもう一度顔をと引寄せて、見れば見る程、胸迫り、離れ難なき憂き思ひ……。」を見事に演じてくれたことである。



棚橋賞に輝いた  
水口登美子学芸員

(岐阜県博物館 尾藤俊二)

# 東海3県博物館協会交流研修会に参加して

とき 平成4年11月26・27日

ところ 鳥羽水族館（新館）

“東海3県は一体である”—こんな考え方から、相互の交流と研修を深めてきた本会も、すでに17回を迎えました。今回は55館80名の参加があり、このうち、本県からは、個人会員を含め1所7館12名が参加しました。

第1日目の最初の挨拶の中での二つの話が印象的でした。一つは、“果報は寝て待て。”というが、これは果報は粘って待てでなくてはいけないという話。いま一つは、1年間に200近くの博物館が誕生しているが、120年の博物館の歴史の中で4分の1が消え去っているという話。

はじめにこうした挨拶があったためでもないでしょうが、研修期間中、参加者に緊張感がみなぎっているように感じました。以下、講演と協議内容の要旨を紹介しましょう。

## ◎講演 1

### 「新鳥羽水族館の展示展開について」

講師 鳥羽水族館副館長 片岡照男氏

平成2年7月に約100億円をかけて完成。飼育点数760種、3万匹。年間入館者250万人。

展示展開にあたっては、科学と娯楽の共生、つまり、両者がともに成り立つことと水生生物の多様性いかに種々の形態とか生活とか進化・適応への理解を図ることの二つを柱に考えた。具体的には、①広く、明るく、観やすい展示とそのための施設づくりを工夫した。

その結果、日常経験できない非日常空間を作った。（現在は1～7までしかないが、来年度中にはあと四つのコーナーができ）

②従来の汽車の窓を順にのぞいていく方式から飼育展示物が健康で生き生きしており、自然環境と違和感のない生態としての展示をした。（大きな飼育水槽の設置）③日本動物園水族館協会の指針でもある環境教育と種の保存を考えた展示をした。

## ◎講演 2

### 「新博物館建設について」



講師 海の博物館長 石原義剛氏

消えゆく海の生活文化を保存するため、20年間にわたって伊勢湾、志摩半島などの漁撈用具3万点を収集。総事業費8億円。現在地には昨年7月移転。7月から今日までで約4万人入館。

①鳥羽は潮の風が下から降るといわれ、塩害が気がかり。1日でも長くもつ建物を作らなかった。②展示替えがしやすく、資料が動かしやすいように展示空間を広くとった。上下の動きを少なくし、横に動きやすいように工夫した。③新鳥羽水族館と同じだが、博物館の中に順路をつくらなかった。④実物による資料を強く意識はしているが、過去だけにとらわれず、現在、未来も意識して展示内容を考えていくことが大切だと考えている。

## ◎研究協議

「展示における視聴覚機器の果たす役割」

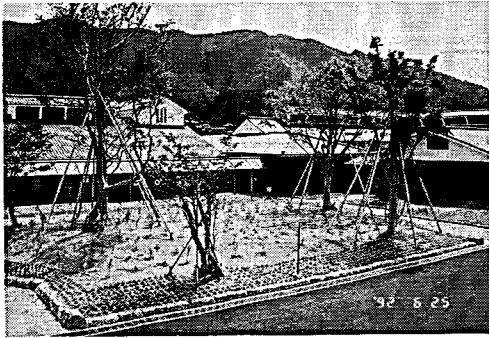
各県1名発表ということで、本県は、岐阜市科学館の丸山順士係長さんが発表してくださいました。

すでに、本県会員の方々は御承知のことと思いますが、岐阜市科学館では、平成2年7月に通産省からハイビジョン・コミュニティ構想モデル地域の指定を受けて、ハード、ソフト、工事費を合わせ約2億円をかけて、昨年3月、ハイビジョンを導入されました。この間の経緯やシステムの概要・機能について発表されました。

なお、愛知県は名古屋市博物館の方が、展示資料をビデオディスクに入れ、メニュー画面からタッチパネルで呼び出す方式で詳細な解説をしている旨、また三重県からは県立美術館の方がハイビジョン・ルームの新設についてそれぞれ発表されました。（岐阜県博物館 渡辺利昭）

## 新しい町づくりを目指して

古川町は、21世紀に向けて、飛遊人（ヒューマン）スケールな『みどりと太陽の町』づくりを目指していますが、そのなかのいくつかの事業を紹介させていただきます。



飛驒の山樵館

まずハードでは、昨年4月に『飛驒の山樵館』が、6月には『起し太鼓の里』がオープンしました。『飛驒の山樵館』は古川町の民俗、考古を中心とした歴史的遺産を紹介する館で、観光客の誘致のほか、町民の皆様にも活用していただける施設を心がけています。開館と同時に発足した企画推進委員会は、特別展、企画展の計画立案から、調査、展示に至るまで、館の職員と一緒に進めています。行政側からの押しつけではなく、いろいろな年代の委員さんや町民の方々の構想を表現できる館を目指します。

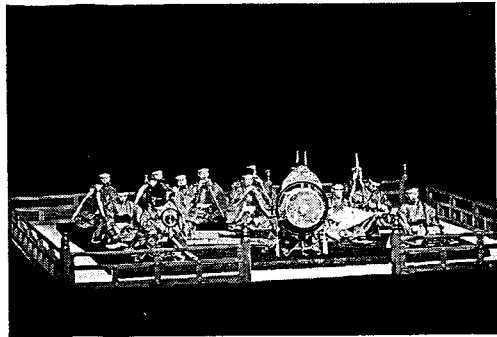
『起し太鼓の里』は『飛驒古川まつり会館』が中心となる施設で、常時3台の県の重要有形民俗文化財である『屋台』を展示するとともに、『起し太鼓』の再現は、最新の高画質ビデオシステムとワイドスクリーンを通じて、実物の迫力をそのままの感動と興奮を呼ぶ立体映像方式を導入しています。また、白壁土蔵で知られる古い町並みを流れ、錦鯉800匹が泳ぐ瀬戸川一帯の全面整備により、『起し太鼓の里』は公園、イベント広場として利用できます。これらの設計は、清家清先生によるものです。

古川町教育委員会 白川修平

すでに開館しています『飛驒の匠文化館』と『飛驒の山樵館』、『起し太鼓の里』の3施設は、それぞれの特色を生かし個性化を図りながら、有機的に活用していきたいと考えています。

ソフトでは、常に日本の音楽界をリードし、音楽文化の向上に貢献されている功績に対して顕彰する『飛驒古川音楽大賞』を平成元年に創設しました。第1回の大賞を受賞された武満徹先生には、これがご縁で交響曲の作曲を委嘱し、平成6年には世界初演を行う予定です。

また『飛驒古川国際音楽祭』は、今年で第15回を迎え、これまでに東京フィルを始め朝比奈隆大阪フィル、秋山和慶N響、小泉和裕新日フィル、ジャンフルネ都響など著名な音楽家や交響楽団を招聘しています。昨年は『ベルリン国立歌劇場室内オーケストラ』、宮内庁楽部楽師による『雅楽公演』、『国際ジャズフェスティバル』など、幅広いジャンルの演奏会を行いました。古くから音楽は都市との結び付きが非常に強いものがあり、その特色を地方の町、限られた田園の中に引き付けようとする試みです。



雅楽公演

以上、古川町の町づくりの一端を紹介しましたが、これらの新しい町づくりは、先人より受け継いだ『文化』の土壌を生かし、新しい『文化』へと育て上げようとするものであります。

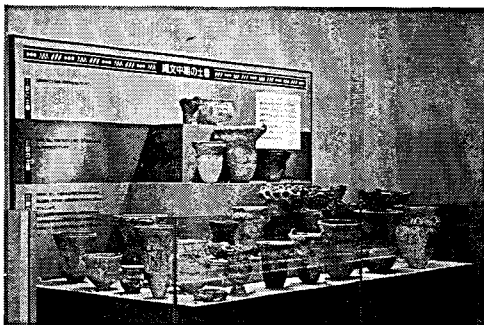
関市塚原遺跡公園展示館

〒501-32 関市千疋1777-1  
TEL 0575-28-5955

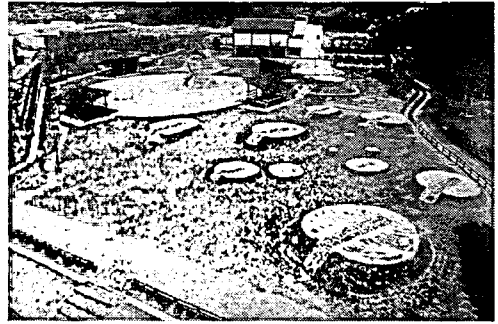
関市千疋大橋より長良川右岸を遡ると茅葺き屋根の建物やいくつもの小丘のある公園が見えてくる。建物は縄文時代中期の家屋を復元したものであり、小丘は古墳時代後期の古墳を復元したものである。塚原遺跡公園・展示館は、同遺跡を遺物と遺構の両面から総合的に紹介するという大きな特徴をもつ施設である。

塚原における最古の生活痕は、縄文時代早期(約7000年前)のもので、尖底土器や石器、石組の炉跡が発見されている。その約2500年後、縄文時代中期には集落が営まれたらしく、土器・石器、竪穴式住居17軒、掘立柱建物19軒の他、蒸し焼き用と思われる集石遺構等が発見された。中でも掘立柱建物の県下初の発見は、竪穴式住居を注目しがちであった縄文時代建物史に一考を投じた。その用途には共同作業小屋説や倉庫説等があるが、この復元家屋群は多様な用途を想定し別々の構造にしてあり、その違いを比較することもできる。

次に人々がこの地に足を踏み入れたのは、有力農民層にも古墳を造る力が備わり、それが群集墳として出現する古墳時代後期のことである。塚原古墳群は全36基の市内最大の古墳群であるが、その内の16基が調査され、12基が整備されている。この古墳群は6世紀後半代から約120年にわたって造られたもので後期古墳の変



展示館内部・縄文土器陳列コーナー



右手前が古墳群、左後方が縄文集落  
最後方が展示館

遷がわかる。これらは家族墓として数回にわたり使用されたりしく、時期差のある須恵器が副葬品として発見された。石室は追葬に便利な横穴式石室が多く、川畔という地の利を生かして川原石を利用して構築してある。

展示館は、高床式の掘立柱建物風の造りで、館内は縄文時代と古墳時代後期に大きく仕切られている。それぞれの時代には、土器・須恵器、その他の遺物、ジオラマの三つのコーナーが設けてあり、解説パネルや写真パネルを交えて遺跡の全体を紹介してある。段状に設けられた土器・須恵器の展示台は、それぞれの形の変化が一目でわかるよう、同一段に同時期の資料が陳列してある。「ある日の縄文むら」と題したジオラマは、登場人物に年令や家族関係を設定し、土器作りの女性、家屋造りの男性たちというように役割を与えて、その暮らしぶりがわかりやすく紹介してあり、想像力をかきたてられる。また古墳時代のジオラマは須恵器の出土状況を示す1号墳石室内部のもとなっており、より実感的に古墳を理解することができる。

遺跡は遺物と遺構の二つの柱を通して理解を深めることが重要であり、また開発に伴う文化財の危機が叫ばれる現況にあっては保存という側面も重視しなければならない。その点でこの塚原遺跡公園・展示館は遺跡博物館あるいは地域博物館の好例となるであろう。

- ◇ 交通 名鉄美濃町線小屋名駅下車
- ◇ 開館時間 9:00 ~ 16:30
- ◇ 休館日 月曜日、祝日の翌日、年末年始
- ◇ 観覧料 無料

(岐阜市歴史博物館 横田 宏)

# 幕末維新の転換期と大垣

とき 平成4年10月2日  
ところ スイトピアセンター・学習館  
講師 清水 春一 氏



本年度第3回の公開講座を、4月5日に開館したばかりの大垣市のスイトピアセンター・学習館において実施しました。講師の清水先生は、長年、郷土史の研究に携わるかたわら、大垣市文化財保護協会副会長として文化財保護に熱心に取り組んでおられる方です。

## ◎ 講演要旨

幕末の動乱期、勤皇か佐幕か藩論が二分する大垣藩における藩老「小原鉄心」の功労を中心に、大垣藩の動き等について紹介されました。

### 1. 戸田家について

壬申の乱に見られるように、大垣の地は古来より戦略上極めて重要な土地であった。

関ヶ原の戦の後、豊臣家に心を寄せる西日本の諸大名に備えて、重要な地大垣に普代の大名戸田氏が封じられた。大垣藩戸田氏初代氏鉄は徳川家康の姪を娶り、膳所3万石から尼崎5万石、更には大垣10万石の城主へと栄転を重ねるなど、幕府の厚い信頼を得ていたのである。

武田耕雲齋率いる水戸藩の尊攘派天狗党が一橋慶喜に心事を訴える目的で大挙上洛を図ったとき、大垣藩は桑名藩、彦根藩とともにそれを阻止することを幕府から命じられている。大垣藩は、幕府の藩屏としての役割を担っていたのである。

### 2. 鳥羽・伏見の戦における大垣藩について

小原鉄心の養子兵部が徳川慶喜に従って大阪にいるとき、鳥羽・伏見の戦が勃発した。兵部は藩兵500人を率いて参戦し、薩長と干戈を交えた。大垣藩では朝廷と幕府の何れにつくべきか態度が決せず、危急存亡の淵にたたされた。鉄心は時勢の方向を説き、大義名分を明らかにして藩論を統一し、急遽朝廷に謝罪し、東山道征討軍先鋒を命じられることにより、ことなきをえた。

### 3. 小原鉄心の人物について

#### ・優秀な経済官僚

幕末に及んで、大垣藩もご多分に洩れず、強力な財政立て直しと藩政改革の必要に迫られていた。鉄心は、人柄と手腕力量を藩主氏正に認められ、特別の信任を受けて藩政改革に当たり清濁合わせ飲む方策により、わずかの期間でめざましい効果を上げた。

#### ・有為な人材の育成

藩財政が苦しいにもかかわらず、藩士の中から優秀な人材を選んで昌平黌や他藩の藩校へ遊学させた。この中から後の日本を背負う人材が輩出し、「文教の大垣藩」の名をいよいよ高めたのであった。

#### ・幅広い交友関係

大垣市船町全昌寺の第25代住職鴻雪爪を心の師とし、政治及び社会学は伊勢国・津・東堂藩の斎藤拙堂に、軍略は高島秋帆、佐久間象山に学んだ。他に、梁川星巖、その妻紅蘭、野村藤陰、溪毛芥、鳥居研山、市川少蔵等さまざまな職業、身分、思想、分野の人々と幅広い交際をしており、多様かつ柔軟な思考の持ち主であった。

#### ・情義に厚い人柄

偽官軍として弾圧・処断された赤報隊に関わり大垣で獄死した加納の俠客水野弥太郎の名誉回復を図ったり、愛妾が不義をはたらいた時に二人を夫婦にしてやったりと、情義に厚く懐の深い人物であった。 (事務局 野原 薫)

# 「資料の保存の仕方」

第24回研修会は、下記の要領で実施しました。

〈研修内容〉

研修テーマ；「資料の保存の仕方」

研修日程

・ 13:00～14:00

「ハイビジョンについて」

遠藤俊治課長補佐（岐阜県博物館）

・ 14:15～15:30

「書籍の補修について」

國光正宏課長補佐兼自然係長

（岐阜県博物館）

今回は、最近注目されてきているハイビジョンの機能とその利用についての研修と、書籍の補修について会員の技術を高めるための研修が行われました。ここではその中から、紙葉の傷みや表紙のはずれの補修のしかたについて紹介します。

「書籍の補修」

・ 紙葉の傷みの補修

・ 裂け破れ

裂け目は必ず斜めに薄くなるので、裂け目に糊を塗り、破れた所をつけ合わせて、上からアイロンをかける。この方法がうまくいかない場合は、薄い美濃半紙を裏側に張るとよい。糊はうすいものを使うとよい。

・ 折り込み（ページの角の折れまがったもの）

長い間のうちにすり切れたりするので、みつけたらすぐ伸ばす。アイロンを使って伸ばすこともよい。

・ しわ伸ばし

しわのひどいときは、霧吹きで水分を加えアイロンで伸ばすとよい。

・ 水ぬれのくっつき

湿気が高いことから水分を含んだり、水漏れなどで水がかかったまま放置したりすると、紙質によっては、ページとページが張りついてし

まうことがある。そっとはがして離ればよいが、印刷面がむけてしまうようなときは、水にぬらしてはがすとよい。吸い取り紙のようなもので水分をぬき、アイロンをかけるとしわがでできない。

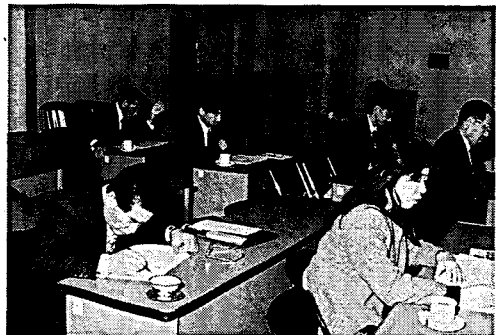
・ 表紙のはずれや見返し紙の補修

製本には上製本と簡易製本がある。上製本はちりつきの表紙に中身をつけたものであり、見返しが必ずついている。それに対し、簡易製本は、中身と同じ大きさの表紙でくるむだけのものである。

・ 表紙のはずれ

表紙の天地際の見返しがはがれて浮き上がったときは、濃い接着剤を楊枝につけて浮いた所に塗って補修する。溝全体がはがれ、表紙が背から離れている状態を修理するときは、表紙と中身を完全にはがす。中身の綴じがしっかりしているものは背固めをする。背が完全に乾いたら、表紙と中身の接合をする。表紙と背の接合部分は布などで補強したり、袋帯背張りなどをして丈夫にしておく。中身を表紙にくるみ、見返しに糊入れをして修理は完了する。

※背固めや袋帯背張りにはボンドを用いるが、紙を変質させないために、中性のものを用いるとよい。また、見返しを張るときなどの糊は、防腐剤が入っていないものを使用するとよい。



（研修委員長 國光正宏）

# 『私達の日常生活に生かす薬用植物』

とき 平成5年2月5日

ところ 内藤記念くすり博物館「大ホール」

講師 内藤記念くすり博物館

アドバイザー 逸見誠三郎氏

## ◎ 講演要旨

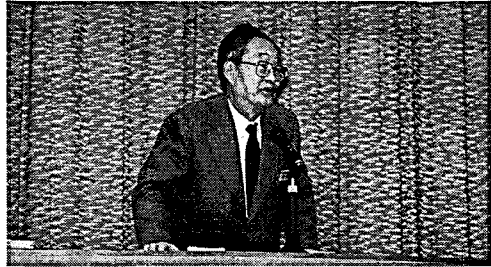
自然の中で、人が住まいを定め、狩猟から農耕にはいるとき一番最初に植えた植物はアワ、イネ、ムギ、トウモロコシ、サトイモ、バレイショ、サツマイモなどとされています。

人は、森や野から経験的に食べ物を探するとき、食味、満腹感、体内の反応をみると同時に、色形、香り、感触で他のものと区別します。これは生薬の判別でも欠かせない方法です。

現在でも、人は住まいを定めると、木や草を植えます。農家はユズ、ミカン、カキ、ナンテン、マツ、タケ、ウメ、ビワ、神社やお寺はクスノキ、ヒノキ、スギ、イチョウ、マツ、シイ、カキ、サクラ、ウメを植えます。一般の家ではビワ、イチジク、ツバキ、サザンカ、ヒイラギ、サンショウ、ナンテン、マツ、タケ、熱帯ではヤシ、バナナ、パパイヤ、マンゴウなどを植えます。これらは、収穫が早く、食用にでき、縁起のよいものが多く、薬用になるものも多く含まれています。

西洋における生薬の起源は、エジプトで紀元前1500年頃、ロゼッタ・ストーンより解明されました。エーベル、パピルスに古代エジプト人が使った最古の医薬、700種が記載されています。

中国の生薬の起源は神農本草経に365種が記



録されており、ニンジン、ブクリョウ、ナツメ、ゴオウ、ジャコウ、ロクジョウ、ダイオウ、ウズなど。本草綱目には1871種の記載があります。そして漢方では複数の生薬をまぜた処方では陰陽虚実による診断が行われます。

日本には、鑑真の西暦753年ころ、仏教伝来とともに、中国薬物が入り、正倉院には60種の薬物が収められています（薬物を明記した世界最古の標本）。江戸時代の後半まで、医療は漢方医の時代が続きました。現在の日本では、生薬を主にした処方による医療は漢方医師の認可はありませんが、中国、タイ、マレーシア、ミャンマー、インドでは認められています。

天然物を選別し、乾燥して使いやすくしたものを生薬といいます。その中で和薬とは一般に日本産の薬用植物で、ハーブはヨーロッパで使われる薬用植物で、主に香草をさします。スパイスとは香辛料で、食品の香り、味つけに用います。これらはどれも、適した時期に採集、収穫すること、他の物が混ざらないようにすること、手早く、必要な部分を乾燥させること、温度の変化が少なく、湿度の低いところに保管することが望ましいといえます。

最後に毒草をおぼえておくくと便利です。日本には猛毒な毒草は少ないので、ドクウツギ、トリカブト、ハシリドコロ、チョウセンサガオ、ジギタリスといったところです。

これらの植物に注意の上で皆さんの日常生活に薬用植物をいかしてはいかがでしょうか。

(内藤記念くすり博物館 野尻佳与子)

